

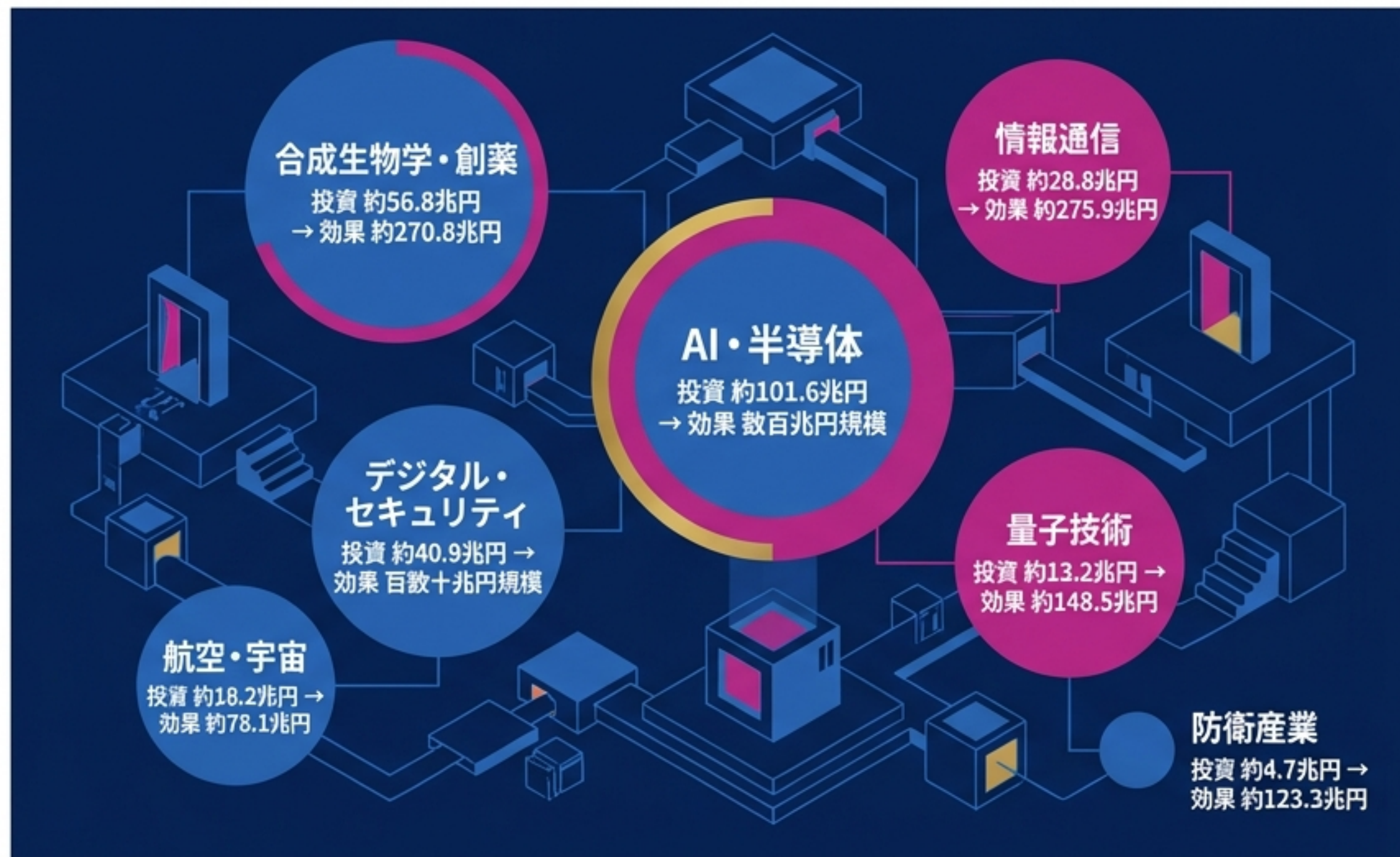


技術的優位を制度的優位に変換する： 次世代・知的財産戦略の青写真

日本成長戦略会議が描く370兆円投資と「ルール形成」の闘争領域

2040年へ向けた未曾有の成長投資：370兆円が切り拓く1,100兆円GDPの実現

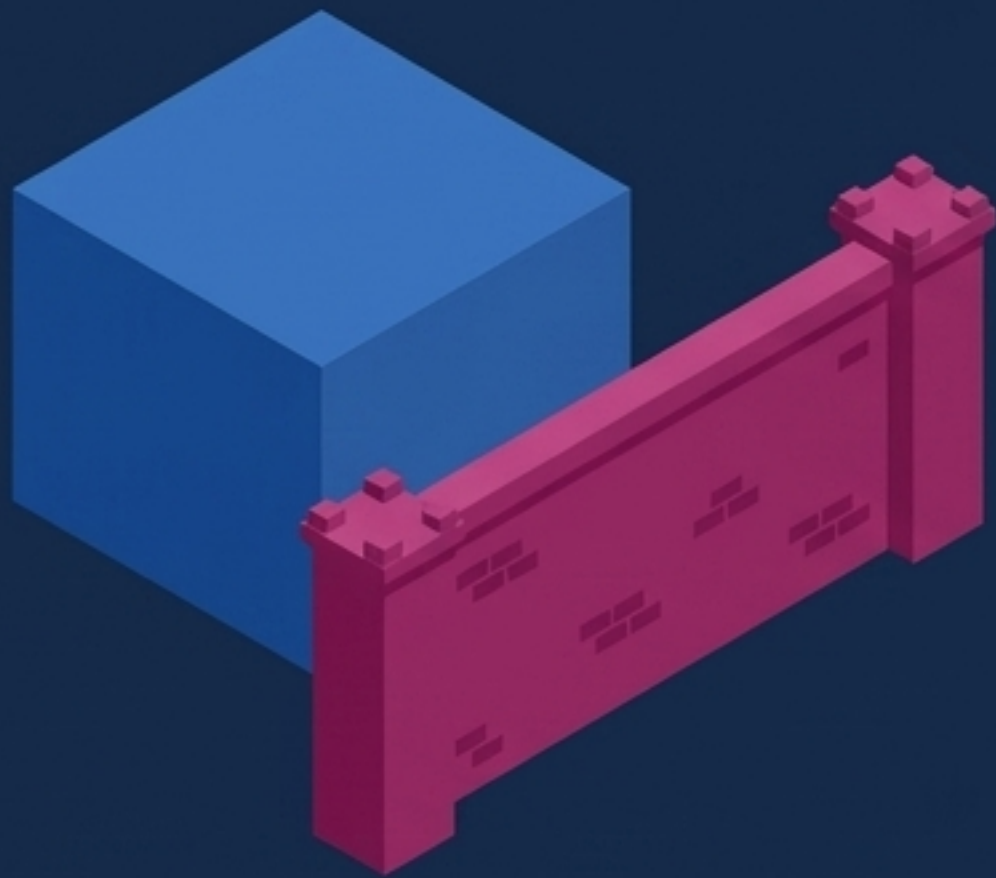
2026年6月、政府は緊縮志向から脱却し「成長投資」への大転換を宣言しました。戦略17分野における62の技術に対し、国・民間累計370兆円超の投資ロードマップを策定。これは名目GDP1,100兆円に迫る経済成長を実現するための国家的な基盤となります。



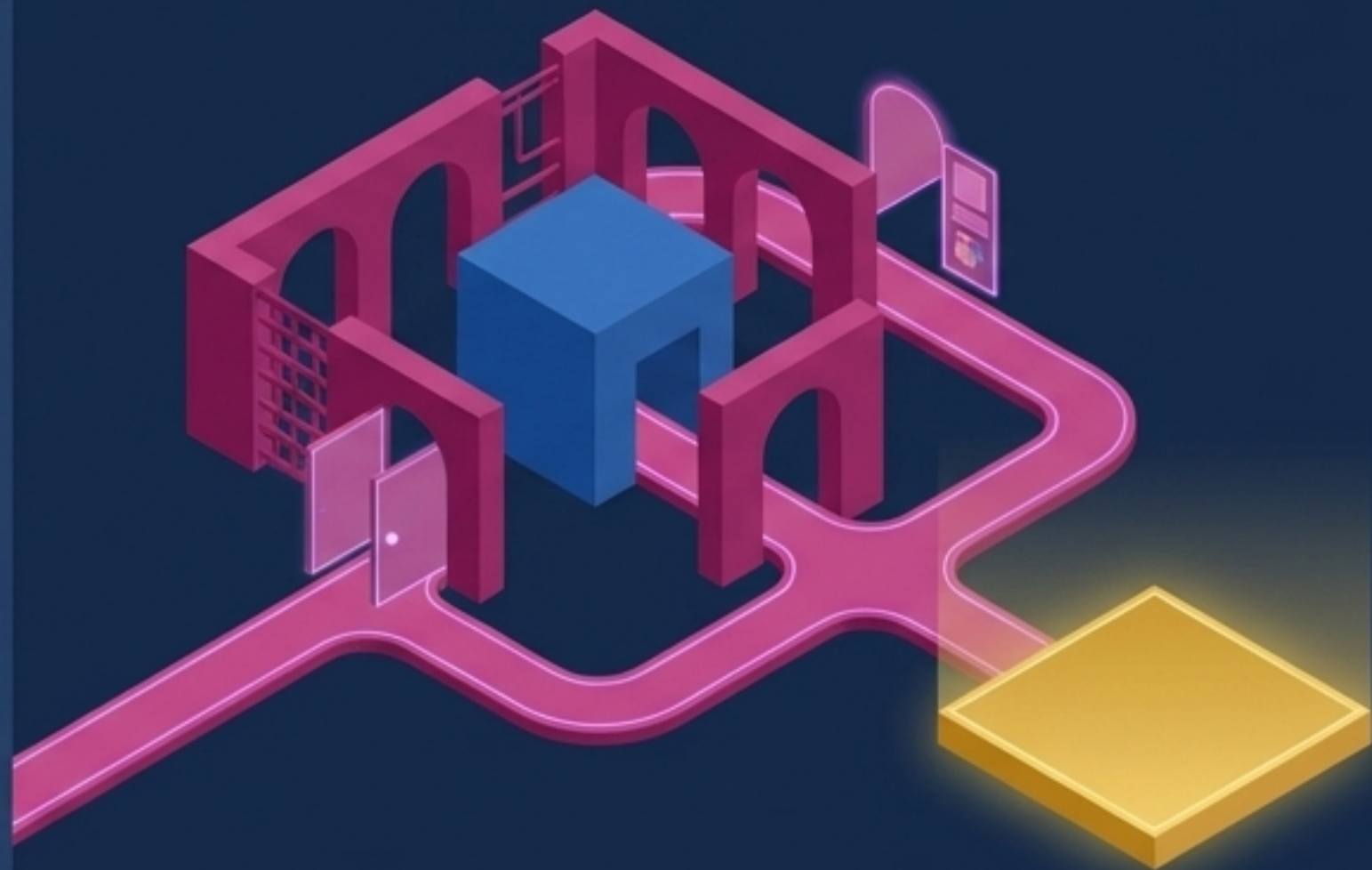
技術開発（シーズ）だけでは市場は獲れない：知財戦略のパラダイムシフト

過去の日本の産業史において、優れた要素技術を生み出しながらも、デファクト/デジュレスタンダードの獲得競争で敗れ、プラットフォームの主導権を他国に奪われる構造的課題が存在しました。370兆円の巨大投資を「国富」に結実させるためには、特許による技術の独占にとどまらず、標準化とルール形成による市場設計へと戦略の軸足を移さなければなりません。

過去の構造：特許による独占の限界



次世代の構造：オープン&クローズ戦略の実装



闘争領域1：ディープテックの覇権を握る「オープン&クローズ戦略」

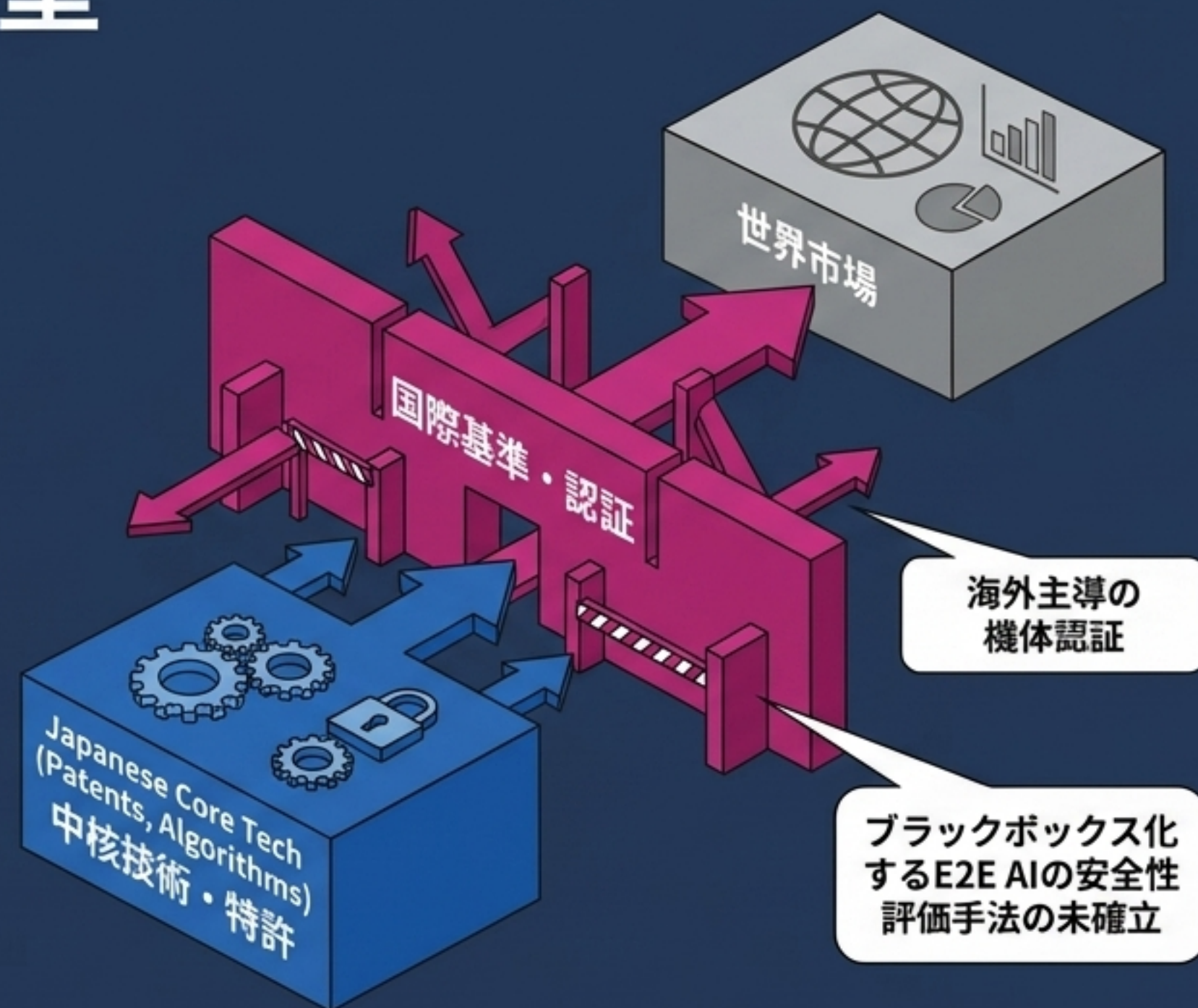
量子技術や次世代情報通信（2030年に53兆円市場と予測されるAPN等）において、全てを特許で囲い込む時代は終わりました。インターフェースや評価手法をオープンにしてグローバルなエコシステムを形成しつつ、競争力の源泉となる中核技術を堅守する精緻な切り分けが求められます。



警告：評価手法が海外主導で国際標準化された場合、自国の優れたコア技術が非関税障壁により排除されるリスクが存在する

競争領域2：次世代モビリティの市場アクセスを阻む「国際認証」の防壁

空飛ぶクルマや自動運転において、独自の特許技術（機体やAI）を開発しても、その上位に位置する「安全性評価」や「認証基準」が欧米主導で形成されれば、グローバル市場への展開は極めて困難になります。技術開発と並行したルールメイキング外交が、新産業創出の絶対条件です。



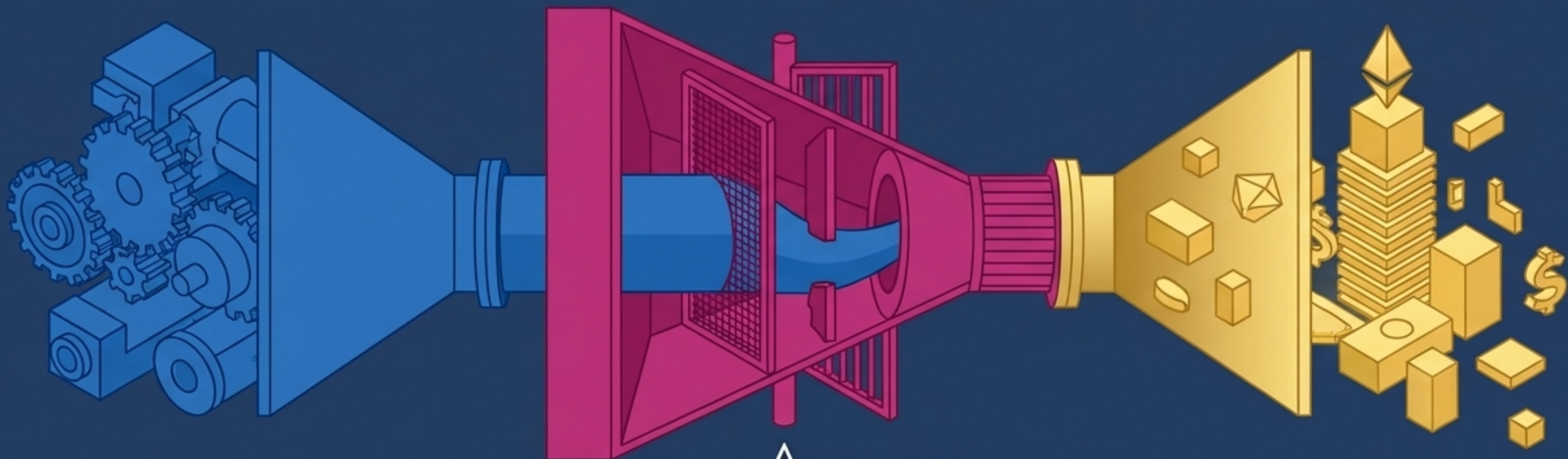
競争領域3：GX分野の生死を分ける「環境価値」の定量化とLCAルール

鉄鋼業の水素還元製鉄や、発酵産業のウェット領域の強みを活かしたバイオ素材など、巨額投資で高品質な「低炭素製品」を製造しても、その環境負荷の低さ（GX価値）を定量的に証明・評価する国際ルールがなければ、高コストな部素材は競争力を失います。

優れたプロセス技術

LCAルールの不在による関門

国際標準化による環境価値の創出



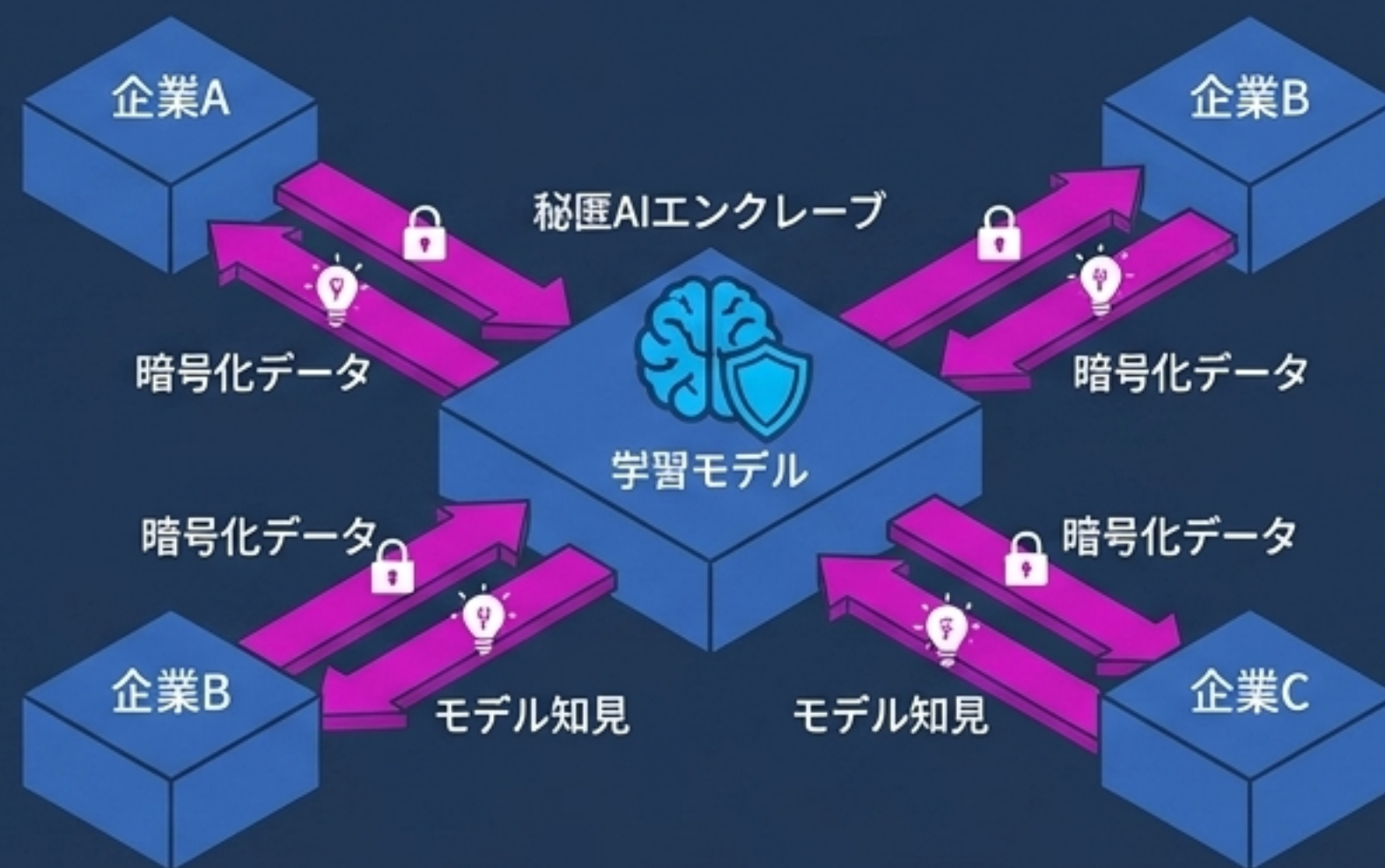
警告：米中欧がルールメイキングへの投資を加速する中、LCA標準化で後塵を拝すれば、数兆円規模のインフラ投資が「座礁資産」と化す

競争領域4：データ資本主義における 「秘匿と連携」のジレンマ突破

AI開発を加速させる最大の知財は「現場のデータ」です。

しかし、マテリアルズ・インフォマティクス (MI) や医療DXにおいて、企業秘密の漏洩懸念がデータ連携を阻んでいます。

暗号技術を用いた新たなデータガバナンスが、業界横断的なAI開発の鍵を握ります。



医療領域におけるデータ収集時の入口規制
から、利活用時の出口規制への転換

闘争領域5：経済安全保障を担保する「秘匿化」と「自律性」の獲得

革新的金属部素材などデュアルユース（軍民両用）技術においては、特許出願による技術の「公開」そのものが安全保障上のリスクとなります。商業的優位性の確保だけでなく、技術の流出防止とサプライチェーンの強靱化という国防的アプローチが不可欠です。

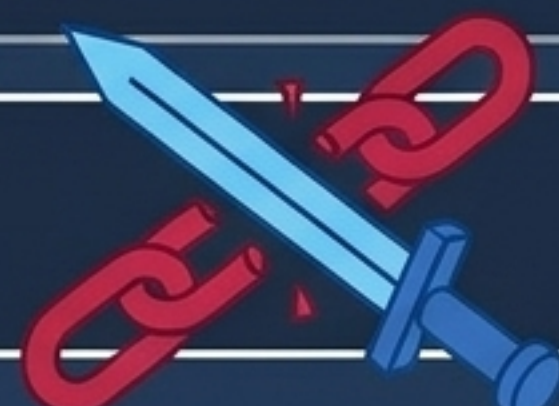


出願・公開による
排他的独占権の獲得



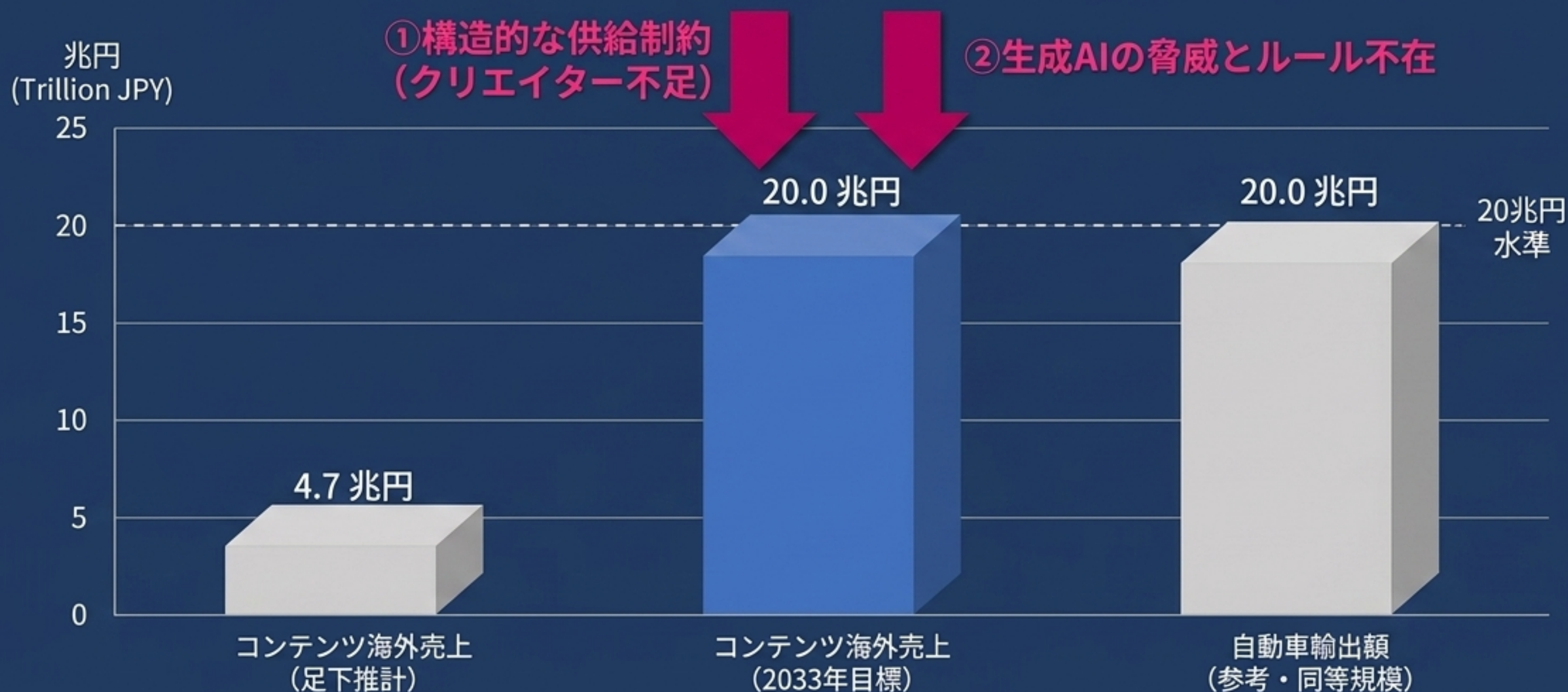
機微技術の厳格な秘匿化と
防衛省版SBIRによる育成

特定国への重要鉱物依存の脱却とリサイクル知財の確立



闘争領域6：コンテンツ産業20兆円の野望と「生成AI」という新たな脅威

日本のコンテンツ産業は、2033年までに自動車輸出に匹敵する「20兆円市場」への飛躍的成長を見込んでいます。しかし、深刻なクリエイター不足と、生成AIによる無断学習・海賊版被害の拡大が、日本が誇る強固なIPエコシステムを根底から破壊するリスクを孕んでいます。



The New IP Strategy Matrix：全産業領域における知財・ルール戦略の俯瞰

産業ごとに競争の源泉と立ちはだかる障壁は異なりますが、「技術的優位をいかに制度的優位に変換するか」という根本的な闘いの構図は完全に一致しています。

産業領域	競争の源泉 (Seeds)	立ちはだかる障壁 (Barriers)	とるべき戦略 (Actions)
ディープテック	量子センシング・光電融合	性能評価手法の未確立	オープン&クローズ戦略と標準化
次世代モビリティ	E2E AIアルゴリズム	海外主導の機体認証基準	国際基準策定の主導
GX・グリーン	ウェット領域のバイオ・水素還元	LCAルールの不在	環境価値の定量化・国際連携
データ・AI	現場の暗黙知データ	企業秘密漏洩・個人情報保護	秘匿計算の実装・出口規制
経済安全保障	革新的金属部素材	デュアルユース技術の流出	戦略的秘匿化・リサイクル知財
コンテンツ産業	クリエイターの創造力	生成AIによる著作権侵害	還元ルールの形成と法執行力強化

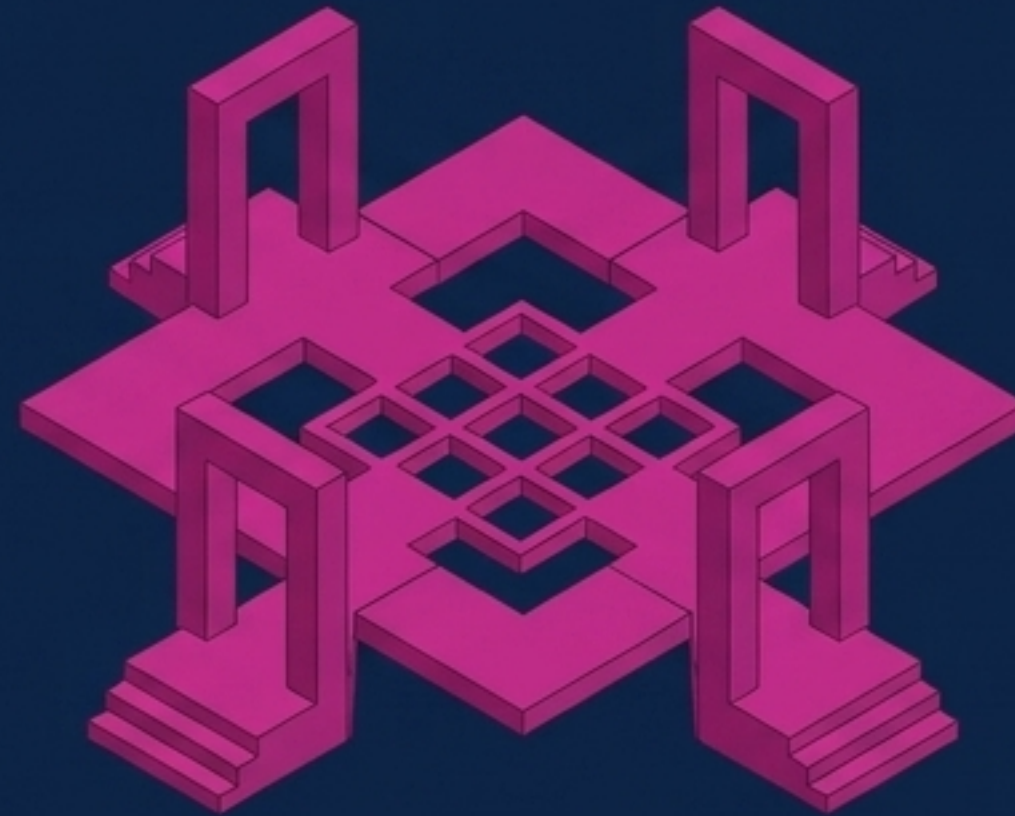
知的財産戦略の再定義：「圧倒的市場価値」を生み出す方程式

最先端の半導体がシステムと最適統合されて初めて価値を生むように、現代の経済競争においては「技術的優位性」を「制度的優位性」へと変換するプロセスこそが付加価値の真の源泉です。特許取得件数の競い合いから、ルール設計とデータ基盤の支配へパラダイムシフトしなければなりません。



技術的優位性
(Technology / Seeds)

コア技術、特許、良質なデータ



制度的優位性
(Rule / Standard)

国際標準化、LCAルール、国際認証、
データ連携基盤



圧倒的市場価値
(Market Dominance)

日本成長戦略を実現する、新たな国家・知財戦略の3本柱

官民投資ロードマップに描かれた数百兆円規模の定量的インパクトを実現し、我が国の強靱かつ持続可能な経済成長を確固たるものにするため、以下の3点への戦略的資源の集中が不可欠です。

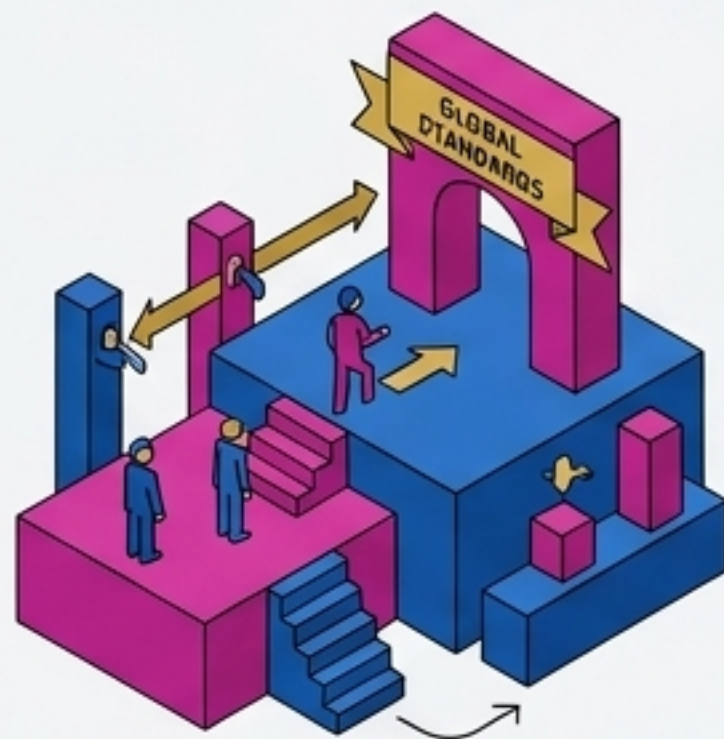
Pillar 1: 知財・標準化一体型戦略（IPCC）の義務化

研究開発の初期段階から知財戦略を組み込む。補助金や政府調達要件として、標準化（オープン）と秘匿（クローズ）の明確な戦略策定を義務付ける。



Pillar 2: ルールメイカー人材の育成とロビーイング

ISO等において自国に有利な規格・評価手法を通すための専門人材の抜本的育成。官民一体となった外交的交渉とロビー活動体制の構築。



Pillar 3: 堅牢なデータガバナンス法制の整備

秘匿計算技術の社会実装、医療分野におけるデータ出口規制への転換、そして生成AI時代に適応したコンテンツ著作権保護の迅速な法制化。





技術で勝ち、ルールでも勝つ。

グローバル市場におけるルールの設計とデータ基盤の支配を通じて、不可欠性を確保する。
370兆円の未曾有の投資を「国富」へと変えるための闘いは、すでに始まっています。